

# 語り継ぐ“ふるさと大崎”総括① 懐かしくも、麗しきまちOSAKI

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA(原風景)を訪ねる『おさき今昔物語』。  
その、第三十七話は、近代的なビルのまちへと変身した大崎駅前エリアに宿す、歩みの足跡や歴史的事実の数々。  
今では昔話の中に生きるのみとなった“懐かしくも麗しい大崎”の記憶の断片を辿ります。

★江戸の昔、茶園のテーマパーク「大崎苑」がこの先に

日本で初めて飛行船が生まれ、飛んだあたり

★S.30年代の山手線

★昭和初期の駅前食堂

★“縄文の大崎”が残る居木橋遺跡

★日本初のシクラメン生誕地「芳香園」があった辺り

★水と緑の大崎を支えた品川用水が、百反坂に

清らかな水と  
緑の野辺に

大崎を代表する野菜として有名な「居木橋カボチャ」  
(左上写真)を始め、西瓜や茄子、胡瓜etc.もふんだんに

人の息吹も  
熱かった、  
目抜き通り  
百反坂

大崎は、豊かな清流が暮らしの糧となつて流れていた  
“水と緑の郷土”でした。大正・昭和初期には多くの  
水車が米をつき、水は様々な畑の作物を養いました。

駄菓子屋から銭湯、演芸場、人力車店等々、150店  
もの店々が軒を連ねていた賑わいと人情密なホット  
ストリート百反坂。新しい時代、これからの注目です。

子供たちの声が通りに満ちていた、昭和30年代頃の百反坂

向島百花園を凌ぐ人気植物園、  
一万坪の「妙華園」がこの先に

水遊びが  
楽しめた  
昭和初期の  
目黒川

西口商店街に  
弾んでいた、  
元気な  
暮らしの音

井戸のポンプの賑やか音。納豆売りや豆腐屋  
の掛け声やラッパの音も、日々のリズムに

優れた水運機能により、ものづくりのまち大崎を育  
んできた目黒川。工業化がピークを迎える前の頃、川  
は子供たちにとって水辺のユートピアでした。

昭和の始め、今の太崎駅前商店街の辺りは十軒長  
屋もあり、威勢のよい商店街も揃って、毎日賑やかな  
暮らしの音で満ち溢れていました。

